

令和2年度  
第4回長浜市都市計画審議会  
会 議 録

長浜市都市計画審議会

令和2年度第4回長浜市都市計画審議会 会議録

- 日 時 令和3年2月3日(水)  
午後1時30分から午後3時00分まで
- 場 所 長浜市役所 5階 5-A会議室
- 出席委員 12人  
(敬称略) 会長 及川清昭  
1号委員 金子尚志、湯坐麻里子、石井太、押谷小助、  
井上晃一、松居利平、廣田光前、松原智子  
2号委員 千田貞之、  
3号委員 饗庭啓良、荒木まつゑ
- 欠席委員 2人  
(敬称略) 1号委員 岡井有佳  
2号委員 竹本直隆
- 事務局 9人  
下司部長、一居課長、塚田室長、伊藤副参事、森田主幹、野村主査  
[長浜市下水道事業部下水道施設課] 宮部課長代理  
[湖北広域行政事務センター] 福山副参事、岡主幹
- 傍聴人 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため傍聴不可とした。
- 配布資料
- ・次第
  - ・資料1：長浜市都市計画審議会委員名簿
  - ・資料2：長浜市都市計画審議会条例
  - ・資料3：長浜市情報公開条例等
  - ・資料4：都市計画火葬場の変更(長浜市決定)について
  - ・資料5：都市計画下水道の変更(長浜市決定)について
  - ・資料6：田村駅・周辺整備事業の方針について
- 会議録
- 1 開会
  - 2 あいさつ  
下司部長(省略)
  - 3 会議の公開について  
(会長)
    - ・会議の公開について説明

- ・傍聴無しについて確認

4 会議録署名人選出  
委員 2 名

5 審議事項

- 諮問第 2 - 9 号 彦根長浜都市計画火葬場の変更（長浜市決定）について
- 諮問第 2 - 1 0 号 長浜北部都市計画火葬場の変更（長浜市決定）について  
※ともに湖北広域斎場の廃止について

(事務局)

- ・資料 4 及びパワーポイントに基づき説明（省略）

(会長)

- ・詳細については、前回審議会にて説明いただいた点から変更はないとのこと。
- ・本日の審議は、従来の火葬場（こもれび苑）の廃止である。
- ・湖北広域行政事務センターの方が来ておられるので、現在の工事進捗状況等を説明いただく。

(事務局)

- ・進捗率は約 90%程度。
- ・3月 30、31 日に内覧会を行う予定である。是非ご覧にいらしていただきたい。
- ・実際の稼働は 4 月 2 日からとなる。

(会長)

- ・火葬炉が 8 基という大規模なもので、長浜市を集約した火葬場となる。
- ・今回はこもれび苑の閉鎖についてである。
- ・委員の皆さまご意見等はないか。

(委員)

- ・湖北広域火葬場という名称については、もう少し工夫をしてはどうか。
- ・「こもれび苑」のような名前は考えないのか。

(会長)

- ・都市計画の手続的な面はあろうかと思うが、その点含め事務局は回答を。

(事務局)

- ・都市計画上は火葬場であるが、名称としては今までどおり「こもれび苑」を使用する。

(会長)

- ・都市計画法上は「火葬場」と定義づけられているので、手続上は仕方ないということである。

(委員)

- ・雇用関係について、現状維持ということでよいか。

(事務局)

- ・新しい施設について、整備・運営を同一の事業者が行うことになっている。
- ・事業者名は「湖北斎場 P F I 株式会社」である。

(委員)

- ・雇用状況については現状維持という理解でよいか。

(事務局)

- ・会社と従業員の雇用関係ということであれば変更はないが、雇用条件については把握できていない。

(委員)

- ・そこら辺の詰めは終わっているのだろうか。

(会長)

- ・おそらく地元雇用のことかと思うが、何か情報はるか。

(事務局)

- ・湖北斎場 P F I 株式会社というのは、地元企業と大手企業の集合会社となっている。
- ・当初入札において、地元雇用に配慮することとしており、十分に配慮されているものと判断している。

(会長)

- ・よろしいか。
- ・では、他にご意見等はあるか。

(委員)

- ・炉数について、資料を見る限り今までは市内で 12 基あったものを今回の 8 基と予備 1 基の 9 基とすることがわかる。
- ・高齢化の時代を迎えようとしているが、9 基で足りるのか。

(事務局)

- ・斎場を整備するにあたって、平成 29 年に斎場の基本計画を定めている。
- ・ピークとなる火葬件数について、国の想定したデータを基にすると、平成 52 年（令和 22 年）の年間 2,663 件となり、長浜市においては一番多い日で 1 日 13 件の火葬が予想される。
- ・1 炉で 1 日あたり 2 件の火葬が可能であることから、1 日最大 16 件の火葬が可能であり、能力としては十分足りるものと考え、整備を実施している。

(会長)

- ・委員として、当初からこの斎場計画に協力している。
- ・人口予測から多くのデータを駆使して算出した値であり、十分な検討を重ねた結果の 8 炉である。

(委員)

- ・わかった。

(会長)

- ・他に何かご意見等あるか。

(委員)

- ・従来の下山田の斎場閉鎖後の土地、場所について市として活用の予定はあるのか。

(会長)

- ・跡地利用について、何かあるのか事務局は回答を。

(事務局)

- ・現時点では決まっていない。
- ・来年度には解体を進めていく。
- ・今後、長浜市や地元の意見を聞いていきたい。

(委員)

- ・この土地は長浜市の土地か。
- ・今後も長浜市の土地として活用できるということでよいか。

(事務局)

- ・土地の所有は湖北広域行政事務センターである。

(委員)

- ・わかった。

(会長)

- ・他に何か意見等あるか。
  - ・諮問第2-9号および諮問第2-10号について、原案を承認することに異議はあるか。
- 異議なし—

(会長)

- ・それでは異議なしと認める。
- ・続いて、諮問第2-11号および諮問第2-12号について事務局から説明を。

●諮問第2-11号 彦根長浜都市計画下水道の変更（長浜市決定）について

●諮問第2-12号 長浜北部都市計画下水道の変更（長浜市決定）について

(事務局)

- ・資料5及びパワーポイントに基づき説明（省略）

(会長)

- ・この件も前回報告事項としてお伝えしているもので、都市計画決定としては事務的な手続ということになる。
- ・下水道の区域が広がるということは市民の皆さまへの下水道の対応も広がるということ。
- ・委員の皆さま何かご意見等はあるか。

(委員)

- ・平成28年12月に都市計画区域が再編されたが、それから長い時間を経て、いま都市計画の変更を行うのはどういった経緯か。

(事務局)

- ・都市計画下水道の変更について、今回は長浜市公共下水道事業の見直しに伴って行うものである。
- ・長浜市公共下水道事業の見直しが約10年に1度ということで、都市計画の変更については、その見直しに合わせて行うことと調整していた。

(委員)

- ・今回はその約10年に1度の下水道の見直しがあったということで、理解した。

(会長)

- ・他に何かご意見等あるか。
  - ・諮問第2-11号および諮問第2-12号について、原案を承認することに異議はあるか。
- 異議なし—

(会長)

- ・それでは異議なしと認める。
- ・諮問第2-9号および諮問第2-10号ならびに諮問第2-11号および諮問第2-12号について、承認を行い、本日付けをもって市長へ答申する。
- ・答申文（案）については、会長一任でよろしいか。

—異議なし—

(会長)

- ・以上をもって本日の審議事項を終了する。

【会議録署名委員】

.....  
Ⓜ

.....  
Ⓜ

## 6 報告事項

### ○田村駅・周辺整備事業の方針について

(会長)

- ・報告事項、田村駅・周辺整備事業の方針について事務局から説明を。

(事務局)

- ・毎年、都市計画審議会にて経過報告をしているものとなる。
- ・委員改選後、初めての報告となるため、これまでの経緯を踏まえ担当室長から説明する。

(事務局)

- ・資料6に基づき説明（省略）

(事務局)

- ・補足となるが、来年度、都市計画決定の手続を進めるにあたり、まずは審議会にて「原案」を審議いただきたいと考えている。
- ・その後、県や住民の皆さまの意見を反映した最終案の審議をいただきたい。
- ・詳しい時期については、追ってお知らせする。

(会長)

- ・都市計画マスタープラン上でも重要なプランとして位置づけられている。
- ・JR西日本（以下、JR。）と長く交渉しているが、金額負担の問題もあり円滑には進んでいない状況であるとみえる。
- ・長浜市としては都市計画決定をうって、広場や道路を進めたいという意向。
- ・周辺人口が増えたので駅を作るという発想もあれば、駅を作れば周辺人口が増えるという発想もある。
- ・待っていても整備計画は進まないの、長浜市としては、整備を先行して行うということ。
- ・JRも乗降客数が増えれば、バリアフリー配慮の面で動きがあるかもしれない。
- ・今後、審議会では原案を諮っていただき、最終的な案もこの審議会でも諮っていくことになる。

(委員)

- ・令和元年の審議会でのこの件の報告を受け、そのときの話ではJRも事業については同意を示されており、今後すぐにでも事業が進んでいくという印象を受けた。
- ・新聞には、JR側が費用対効果が見込めないということで計画を凍結するもの、と掲載されていた。
- ・JRもこういう状況（コロナ禍）で収益も上がりにくいと思う。そういうことが影響しているのか。

(事務局)

- ・令和元年11月に報告したときには、前向きに進めていくという話をした。
- ・当時、費用算出について今後進めていくという話をしており、当時は概算工事費21億円と示していた。多額なこともあり、JR側に一定の負担を求めていくということで報告した記憶がある。
- ・それから社会情勢の変化が起こり、JRの方も経営状況も一定厳しいものと報

道等で聞き及んでいる。JRの設備投資については、凍結しなければならない状況と聞いており、委員ご指摘のとおり、JRの経営状況による影響もあるものと考えている。

- ・長浜市として、田村駅については旧長浜の頃から第2の都市拠点という位置づけがなされていた場所であり、今後ともJR側と協議を続けていきたいと考えている。

(会長)

- ・委員のおっしゃったのは、“なぜ令和元年のときの機運が、わずかな間でこういうことになったのか、なにかJRの方針が変わったとか、そういったことについて何か情報があるか”ということかと。
- ・オフレコのこと結構なので、出せる情報があれば追加でお願いします。

(事務局)

- ・担当者は、ウィズコロナの生活様式で鉄道利用が減ってきて運賃収入が減ってきていること。また、コロナ前の水準まで戻るのも厳しいということ、このような点から施設投資については厳しいということをおっしゃっていた。

(会長)

- ・そのような状況ということだが、委員の皆さま他にご意見等あるか。

(委員)

- ・そのような状況ですが、長浜市としては事業を進めていくということで、継続して検討を重ねていただきたい。
- ・事業費の負担割合も検討して、できる限り早く事業が進められるよう頑張ってください。

(事務局)

- ・心強い応援をいただいたものと受け止め精進する。

(会長)

- ・委員の皆さま他にご意見等あるか。

(委員)

- ・JRが渋っているのは、この約25億円の都市施設と鉄道施設の支出という理解でよいか。

(事務局)

- ・JRには鉄道施設(駅ホーム)の支出について費用負担を求めている。
- ・なかなか合意が得られない。

(委員)

- ・民間では考えられないことだが、JRは費用を渋っているなか、市は事業を進めていくという意向なのは、どういうことか。
- ・JRの収支と長浜市が求めるものは当然違うものと理解する。
- ・市の思惑は長浜南部の開発によって人口流出を止めるということだと考える。
- ・市議会の産業建設常任委員会でも、市は今回の周辺整備計画を進める意向を報告されたとのことだが、JRが一銭も出さないと言ったら、長浜市が全額出してもやるという方向に進むという理解でいいのか。

(事務局)

- ・個人の思いとしては事業成就のためには、それも一つの方法かと思う。
- ・しかし、大きな費用となるため、個人の思いは別として、全体の財政当局との



相談をしていくわけであるが、一つの選択肢として、考えているところではある。

(委員)

- ・鉄道施設は誰の所有物になるのか。
- ・長浜市がお金を出して、J Rの鉄道施設である駅を作るということはありえるのか。
- ・鉄道施設を作るときというのは法的な諸条件をクリアする必要があると思う。
- ・本件について、鉄道施設の定義がわからないので、長浜市が負担するというのはとんでもないことのように思える。

(事務局)

- ・鉄道施設と都市施設をわける線としては、改札口よりホームの中については鉄道施設となり、J Rの所有で、J Rが維持管理を行うことになる。
- ・改札口より外、自由通路部分については都市施設となり、長浜市の所有で、長浜市が維持管理を行うことになる。
- ・長浜駅も平成 18 年に改修したが、総額約 25 億円のうち、J Rが負担されたのはエレベータ部分の 3 分の 1 である 1 千万円のみであった。
- ・公共交通を担う公の会社に近い J Rではあるが、ハード整備については自治体でお願いするという意向である。
- ・委員が質問なされた“鉄道施設はどちらのもの”ということについては J Rのものなので、市としては一定の負担をお願いしたいと考えている。

(会長)

- ・整理すると、線路をまたぐように階段があつて、自由通路が門のようにある。
- ・その自由通路の所有権は長浜市にある。
- ・改札口を上を持ってきて、駅を改修するので、J Rでエレベータの一本でも負担してくれませんか、という話か。

(事務局)

- ・極端に言えば、そのような話である。
- ・実際のところ、ホームの部分についても、全く新しく作るものなので、J Rに一部負担いただきたいと考えている。

(委員)

- ・平成 31 年に J Rが島式ホームを提案されたとき、J Rはお金を出すつもりはないけれど、提案されたというのか。

(事務局)

- ・はっきりとはおっしゃられていない。
- ・J Rとしては、田村駅を整備するにはコストや安全性の観点から現在のホーム形状よりも島式ホームの方がよい、と示されたもの。

(会長)

- ・線路の上を跨いだ形で通路があるが、利用権を、賃料を払って借りるということになるのか。

(事務局)

- ・賃料は発生しない。

(会長)

- ・わかった。

- ・他に何かご意見等あるか。

(委員)

- ・当初、産業建設常任委員会では、設計はＪＲが行い、島式ホームでエレベーターが３機必要になると聞いたので、なぜ３機もエレベーターが必要なのか、他に方法は無いのかと質問したこともあった。
- ・３機のエレベーターも自由通路も管理は長浜市がしなければならないということについては、全国的に見ても、どこの自治体も同様にやっておられるので理解するところである。
- ・最低 25 億円かかるなか、ＪＲが一部でも負担してくれないのであれば、周辺整備事業を先に行いたいという市の要望について、当委員会で検討した結果、了解するに至った。
- ・鉄道事業を委員会で認めたということではない。
- ・委員会で認めた事項は、資料赤枠の短期で取り組む事業（産官学連携によるエリアマネジメントや民間開発の促進、官民連携による住宅建築の推進）である。
- ・委員会のなかで発言していたのは、田村には２つの大学があって、ドームがあって、利用度はこれからも上がっていくのではないかと。
- ・大学や地元との連携によって、活力ある事業をやっていけばＪＲも放っておけないことになるのでは、と思う。
- ・行政側から一方的にハード整備があります、ソフト整備もやります、というのでは何も生まれえない、と考える。できるだけ地元が中心となって動いていくように、と委員会では発言している。
- ・皆さまのご意見もいただくと、委員会でも反映できるので、よろしく願いしたい。

(会長)

- ・いま 1 日あたりの乗降客数は 2,500 人だったか。

(事務局)

- ・はい。

(会長)

- ・ＪＲとしては投資効果よりも安全性を最優先するので、乗降客数が増えれば、その面で考えてくれるのではないかと、という思惑もあり、市は周辺整備のための都市計画決定を先行して行うということ。
- ・いまほど委員の発言にあったとおり、鉄道利用を考えて駅の重要性を訴えるのではなく、住民の皆さんで駅を盛り上げていけば、ＪＲも動くのではないかと。
- ・周辺整備と同時並行でＪＲとの交渉は続けていくということ。
- ・他にご意見等あるか。

(委員)

- ・本件は市の総合計画の集約型多核都市構造を形成する一環と解釈している。
- ・社会情勢の変化から、政府も二酸化炭素の削減を掲げており、滋賀県は環境県を謳っているため、市も削減に向けた各般にわたるインセンティブを考えてみてはどうか。

(会長)

- ・委員のアドバイスについて、よろしいか。

(事務局)

- ・貴重なご意見としていただく。
- ・ご意見踏まえて、今後検討していきたいと思う。

(会長)

- ・他にご意見等あるか。

(委員)

- ・良い計画と思う。
- ・地元住民の声としては、どうなのかということが気になる。

(会長)

- ・事務局は回答を。

(事務局)

- ・駅の利用について、バイオ大学の学生が多く利用している。計画作成の際に、駅がかなり老朽化しているため、出来るだけ早く改修してほしいという声を多くいただいている。
- ・地元住民の方々からも、同様に老朽化が進んでいるため、出来るだけ早く改修してほしいとの声を多くいただいている。
- ・もともと田村駅は、昭和6年に田村村の方々がお金と土地を提供して、こちらに駅を設けられ、昭和32年に今のホームや駅の形ができたことから、地元の方々にとって思い入れがある。

(委員)

- ・それは駅についての話かと。
- ・周辺の開発ということについてはどのように意見されているのか。

(事務局)

- ・田村エリアは平成24年に市街化区域に編入しており、そこから計画的に市街化を進めていくと、市としては地域に説明している。
- ・そのこともあり、地元の方々からは、市街化を順次進めていってほしいとご意見いただいている。

(会長)

- ・よろしいか。
- ・地元の機運も高まっているということで理解した。
- ・他にご意見等あるか。
- ・今日は諮問ではないが、今後周辺整備を先行していくということで、これに対する反対意見等は今のうちに出していただいた方が、今後のバランスが取れることになる。

(委員)

- ・コロナによって政界情勢が大きく変化してきている。
- ・大手企業においては、東京の一極集中から、地方に拠点を設けるような動きが出てきている。
- ・富士通は3割を都市部に残し、後は地方に人員配置すると新聞にあった。
- ・せっかく本件のような計画があるのであれば、大手企業がこういう地域に出てきたいと思えるような開発の仕方をしていくと、人口も増え、若い優秀な人材も長浜に残ってくれることになる。
- ・コロナによって生活様式が大きく変わるタイミングを逆に活かして、田村地域

の大きな開発を手掛けていただけると、良いのではないかと考える。

(会長)

- ・ご助言ありがとうございます。
- ・まちづくりの方向、方針についてもしっかりと議論して進めていってほしいと思う。
- ・他にご意見等あるか。

(委員)

- ・いま委員が言われた点は、今の社会情勢をチャンスと捉える側面で非常に大事でないかと思う。
- ・産官学連携というのは、日本経済に問題あって、意外に成果が出ていない。

(会長)

- ・単に宅地開発して終わりということではなく、新しいテクニックを取り入れて進めていってほしいという委員方のご意見かと思うので、事務局は参考にしていただきたい。
- ・他に何かご意見等あるか。
- ・よろしいか。それでは、これで議題は以上となる。

## 7 その他

(会長)

- ・その他、各委員から言い忘れたことなどあるか。
- ・事務局から連絡事項等あるか。

(事務局)

- ・次回、令和3年4月ごろに都市計画審議会を開催する予定である。
- ・田村駅周辺整備事業に係る都市計画決定の原案についてご審議賜りたい。
- ・詳細については改めて連絡する。

## 8 閉会あいさつ

事務局（省略）